

// 飼育読本シリーズ //

ウサギのかたかたの飼い方





ウサギの種類

飼いウサギはアナウサギの仲間で、地面に穴を掘って生活することからその名前がつけられました。飼いウサギはすべて、野生のヨーロッパアナウサギを様々に改良したもので、ネザーランドドワーフのような1kg位の小さいものや、5kg以上にもなるフレミッシュジャイアントのような大きいもの、耳が垂れているホーランドロップ、手触りの良い毛をもつレッキス、長毛種のアンゴラなどたくさんの種類があります。ペットショップでミニウサギとして売られているのは、ミニウサギという品種ではなく、雑種のウサギです。成長すると小型のものもいればそこそこ大きくなるものもいます。またそれにカラーも豊富で、自分の好みにあったウサギを見つけるのも楽しみの一つだといえます。ちなみに、これらアナウサギは、同じウサギの仲間でも、日本に昔からいるノウサギ、ユキウサギ、アマミノクロウサギ、ナキウサギとは別属別種のかなり遠縁にあたる動物です。

日本にいる主なウサギの分類

ウサギ目	ウサギ科	アナウサギ (飼いウサギ)
		ノウサギ
		ユキウサギ
		アマミノクロウサギ
	ナキウサギ科	ナキウサギ



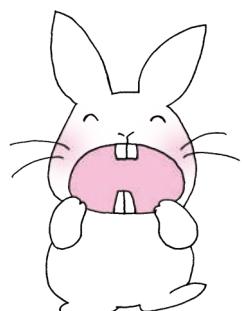
ウサギの特徴

1. からだ

骨 ウサギの骨はとても薄く華奢きやしゃです。そのため骨折しやすく、治るにも大変時間がかかります。

耳 耳は大きく、小さな音でもよく聞こえるため、急に大きな声や音を出すと驚いて、時にはパニックになることがあるので注意が必要です。また耳にはたくさんの血管が通っていて、体温を調節する重要な役割を持っています。

歯 歯は全部で28本あり、すべての歯が一生伸び続けます。歯の伸びすぎを防ぐために干し草を十分食べさせましょう。



2. 食性 完全草食性です。野生では、主に纖維質の多い草などを食べています。

3. 粪便ふんべんを食べる 丸くコロコロした糞便ふんべんと、「盲腸便」と呼ばれるやわらかくにおいのない糞便ふんべんの2種類あります。ウサギは、この盲腸便を食べることで栄養を再吸収しています。これは健康に欠かせないことです。

4. 夜行性 もともと夜行性の動物なので、夕方から動きが活発になります。食事も多くなります。また暗いところでもよく見える目を持っています。

5. 暑さと湿気が苦手 暑さと湿気が苦手で、快適に過ごせる温度は 18~23°Cです。暑すぎると熱中症になったり、寒すぎると体力が落ち病気になる危険がある、急激な温度変化に弱い動物です。また湿度が高いと皮膚病にかかりやすいので注意が必要です。ケージの置き場所（設置場所）には十分配慮し、ウサギが健康で快適に過ごせる環境づくりに努めましょう。

6. オスとメスの見分け方 外部生殖器の形や、肛門から陰部までの距離で見分けますが、一般的には判別が難しいです。※ウサギは品種や体格にもよりますが、3カ月～6カ月で子どもを産めるようになり、ほとんど年中出産が可能です。繁殖を希望しないのであれば、別々のケージで飼うようにしましょう。



ウサギのハウス

ウサギは縄張り意識の強い動物で、特にオスにその特徴が強く現れます。何羽^{*}かと一緒にするとケンカをしたりストレスがたまたりしますので、ひとつのケージに 1 羽ずつ飼うようにしましょう。

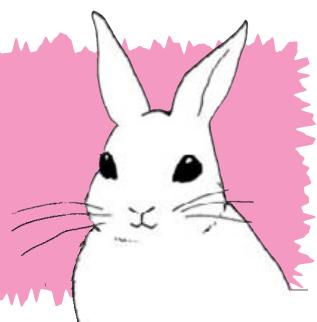
また、コードや布類、紙類などをかじったり、害のある観葉植物や食べ物などを食べたりすることがあるので、原則ケージの中で飼いましょう。

1. ケージ ウサギがどの位の大きさに成長するかを確認して、成長した後もゆったりと体を伸ばすことができ、立ち上がった時にも十分な高さがあるものを選びましょう。ケージの床は脚の裏を傷めないように木製すのこやプラスチック製のすのこなどがよく、金網の床は避け、少なくとも一部は板張りにしましょう。すのこは汚れたら取り替えられるように、複数あると便利で良いでしょう。

2. 食器・干し草入れ 簡単にひっくり返してしまったり、口でくわえて振り回したりできないような安定感のあるものを選びましょう。

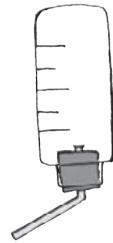
★ ウサギの考え方

哺乳類はたいてい 1 頭 2 頭、1 匹 2 匹と数えますが、ウサギは 1 羽 2 羽と数えます。
まるで鳥みたいですね。



3. 給水器 湿気を嫌うので、体を濡らす心配の少ないボトルタイプの給水器が良いでしょう。この給水器で上手に飲めない場合は、ひっくり返す心配のない安定感のあるものを利用しましょう。

4. トイレ 決まった場所で排泄する習性があるので、これをを利用してトイレのしつけをしましょう。人がトイレの場所を決めるよりも、しばらく様子を見て、ウサギが決めた排泄場所にトイレを設置すると比較的スムーズにしつけができます。どうしてもうまくいかない場合はトイレ用具を変えたり、置き場所を見直してみましょう。



ボトルタイプの
給水器

ウサギの食べ物

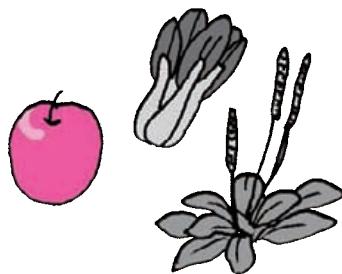
1. 干し草 歯の伸び過ぎの防止や、お腹の調子を整える効果などがある干し草を主食として与えます。干し草には多くの種類がありますが、チモシー（イネ科）が一般的です。

2. ラビットフード ラビットフードは栄養のバランスを取るための補助食として与え、与えすぎに注意しましょう。

3. 新鮮な水 ウサギは多くの水を飲みます。少なすぎると自分のおしっこを飲んだり、病気になったりします。いつでも飲めるよう、毎日新鮮な水をたっぷり与えましょう。

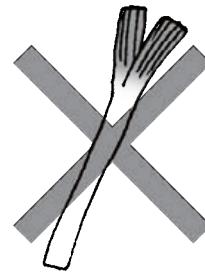
4. 野菜・果物・野草 少量なら水でよく洗ったチンゲン菜、りんご、オオバコなどを、水気を取ってから与えても良いでしょう。ただし、中毒をおこす恐れのあるネギ類は与えてはいけません。またでんぷん質の多い食物（穀類、イモ類、またそれらを原料としたパン、クッキーなど）はウサギの盲腸に負担をかけるので避けましょう。

与えてよいもの



りんご・チンゲン菜・オオバコなど

与えてはいけないもの



ネギなど

日常の世話と健康管理

ウサギの健康を保つには、食事と運動の管理がとても重要です。

1. 食事 干し草をいつでも食べられるようにたっぷりと与え、補助として1日2回～3回に分けてラビットフードを与えます。ウサギは、幼いうちから食べ慣れていないものはその後も食べないことが多いので、幼いうちから干し草を好んで食べるようにならせておきましょう。水はいつでも新鮮なものが飲めるようにしておきます。

2. 掃除 ケージ内やトイレは毎日掃除をし、食器や給水器も洗います。また、週に1度はケージ全体を洗い、清潔に保ちましょう。トイレ掃除の際は、糞便の大きさや量、尿の色などに変化がないかチェックすると良いでしょう。ただし、ウサギの尿は時間が経つと赤く変色することがあります。



3. ブラッシング ウサギは体をなめて体毛の手入れをするため、お腹の中に毛が溜まり病気になることがあります。ウサギの体を清潔に保つためにも、病気の予防のためにもブラッシングを心がけましょう。特に毛が生え変わる時期や、長毛種のウサギには十分なブラッシングを行いましょう。

4. 運動 ケージの掃除の時などを利用して、1日1回は部屋に放して運動させましょう。ただし、部屋に放す時は決して目を離さず、ウサギが安全に運動の出来る環境を整えることが大切です。また、複数と一緒に運動させるのはやめましょう。

5. 爪切り 抱いたときに痛くないよう、また、何かにひっかけた時にはがれてしまわないよう、伸びたら切りましょう。



ウサギの病気と予防

ウサギは具合が悪くなると、あつという間に危険な状態になることが少なくありません。日頃から、食事の量、糞便の量や大きさ、尿の色に変化がないか、体の動きに変化がないか、目やにが出てないかななどしっかりと観察し、どんな小さな変化も見逃さないように気をつけましょう。

特に普段より食事の量が減った、うずくまって苦しそうにしている、糞便の量が減っている、下痢をしているなどの症状がある場合は早めにかかりつけの病院に診てもらいましょう。
(病気になる前に、ウサギを診てくれる病院を早めに探しておくと良いでしょう。)



しつけをしながら仲良く

ウサギは接し方次第で人によく慣れる動物です。また、学習する能力は高く、自分の行動と結果を結びつけて、良いことも悪いこともすぐに覚えてしまいます。人もウサギも楽しく健康に暮らすために、たっぷりの愛情をもってしっかりとしつけを行いましょう。

1. 抱かれることに慣れさせる 每日の健康チェックや爪切り、毛の手入れなどのために、抱かれることに慣れさせが必要です。最初はウサギが暴れたり、飛び降りたりして、ケガをしないように正座



して体をくうように持ち上げ、別の手でお尻をしっかり支えます。ひざの上に乗せ頭や背中をそっと撫でてみましょう。嫌がるそぶりを見せたら無理せずひざからおろします。初めは短い時間から始め、決して無理強いはしないようにします。

2. 名前を覚えさせるには 名前を呼びながら、好物の音をさせます。来たら少量のごほうびを与え、なでながらほめます。

3. 悪い癖を覚えさせない ウサギが食器をくわえて投げる、ケージをかじるなどの行動に対して、食べ物を与える、ケージから出したりすると、「食器をくわえて投げたら食事をもらえた!」「ケージをかじったら外に出してもらえた!」などと覚えてしまします。そういう場合は無視をして、悪い癖を覚えさせないようにしましょう。



公益社団法人日本愛玩動物協会

無断で転載することを禁じます 2010年12月発行

公益社団法人日本愛玩動物協会は、動物の愛護と適正な飼養および管理について、その知識を普及するとともに、広く国民の間に動物を愛護する精神を啓発し、生命の尊重、友愛および平和の情操の涵養を図り、もって社会文化の発展に寄与することを目的として、昭和54年5月21日に内閣総理大臣の許可を得て社団法人として設立されました。平成13年からは環境省の指導・監督のもとに活動し、平成22年2月からは公益社団法人として内閣府の監督のもとに活動を行っております。設立以来、愛玩動物飼養管理士の通信教育と認定、人と動物の共生を考える公開セミナーの開催、飼育読本パンフレットシリーズの製作と頒布、全国ペット写真コンテストの主催、ホームページによる広報および情報公開 (<http://www.jpc.or.jp/>) など、動物の愛護および適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業を行っております。

公益社団法人日本愛玩動物協会